

# 議会だより

## 12月定例議会

# しらたか



「じょうずにできたよ」 ひがしね保育園発表会

平成19年  
4月22日執行 <sup>そうしゅう</sup>町議選の争訟について… ③ p

戸建ての子育て支援住宅を建設 …… ⑧ p

・ 12月定例議会概要 …… ② p

・ 町への質問・提言（3議員が一般質問）… ⑤ p～ ⑦ p

・ 委員会レポート …… ⑧ p～ ⑨ p

・ 追跡レポート（あの一般質問のゆくえ）…… ⑫ p

Vol97

2008.1 22

# 一票は民主主義の原点

## 「最上川の文化的景観」 世界遺産登録を求める決議を採択



実証された舟道「黒滝開削跡」

### 報告議会の動き

#### 一点の誤りもない事務の遂行を周知

全部開票したのか、町議選の争訟について、全員協議会や本会議などで次のような質疑が行われました。

再スタートがきかれる  
12月4日、当選の効力に関する争訟について、仙台高等裁判所が下した判決の結果に基づき、町の選挙会で佐竹典明氏を当選人に決定したことを受け、臨時議会が開かれました。一部事務組合議会議員や常任委員などの選任が行われ、  
**西置賜行政組合議会議員** 遠藤幸一議員、  
**総務厚生常任委員会** 委員 佐竹典明議員、  
**議会広報特別委員会** 委員長 青木彰榮議員、  
**鮎貝まちづくり特別委員会** 副委員長 今野正明議員、  
委員 佐竹典明議員、と決まりました。

選挙管理委員会の独自性について、  
問 県と町の選管の独自性はどうか。  
答 県と町の選管は、独立した判断をもつものとなっている。  
問 町選管は、県選管に異議申し立てできないのか。  
答 規定により異議申し立てできない。

県選管で全票を開票した結果、異議申し立て事件以外にも、同様な事例があり、有効・無効の判断に一貫性を欠いた点について、  
問 今後はどのように対応しますか。  
答 判決に従い対応します。町長は、「一点の誤りもない緊張感をもった事務の遂行にあたるように」と、全職員に周知したとの報告がありました。



緊張感を持った開票事務を

| 12月定例議会日程 |                             |
|-----------|-----------------------------|
| 月日        | 会 議                         |
| 12月4日     | 議会運営委員会                     |
| 12月5日     | 議会広報特別委員会                   |
| 12月11日    | 本会議、一般質問                    |
| 12月12日    | 議会運営委員会<br>本会議              |
| 12月13日    | 本会議                         |
| 12月14日    | 総務厚生常任委員会                   |
| 12月18日    | 産建文教常任委員会                   |
| 12月20日    | 議会運営委員会<br>本会議<br>議会広報特別委員会 |

定例議会は、12月11日から20日までの10日間の会期で開かれました。  
本議会に提出された主な議案は、  
白鷹町後期高齢者医療に関する条例など条例4件、  
原油高騰にともなう生活支援の対策を実施する19年度各会計補正予算などが、  
審議の結果原案のとおり可決しました。  
請願は、継続審査となっていた3件のうち、2件が採択、一件が継続審査、新たな2件が採択となりました。  
一般質問は、3名の議員が当面する町の問題点や課題をただしました。  
任期満了の人権擁護委員候補者の同意、推薦案については、全会一致で同意、推薦しました。  
議員発議による、「最上川の文化的景観」の世界遺産登録を求める決議を全会一致で決議しました。

本木勝利 議員



矛盾を含んだ後期高齢者医療保険制度の撤回を要請すべし

町長 新制度のため運営しながら課題解決をはかる



町立病院 待合室

町長 後期高齢者医療保険制度は、新たにできる医療制度であり、この制度をすすめるが課題を解決し、後期高齢者が生活していけるように努力します。

全市町村から議員を

本木 撤回を要請するつもりはないようですが、今の広域連合の仕組みでは、町の発言力はほとんどなく、決まったことを聞くだけということになりません。お年寄りの命を守るためにも広域連合の仕組みだけでも改善させる心構えはないですか。

町長 町の考え方を広域連合の中にかき入れていくことは必要だと思います。方法として全市町村から議員を選出するののも一つだと思いますので、他市町村からの意見として出てきたときは、新たな対応をはかっています。

町長 町長は、後期高齢者医療保険制度は、特に後期高齢者の老人医療費が増大する中、心身の特性や生活実態などに合わせた医療制度として創設することになりました。医療の質の低下や格差を作り出さないように、進めなくてはいけないと思っています。

新たな保険料負担 本木 後期高齢者医療保険制度は、75歳以上の高齢者に新たな保険料負担を押し付け、医療の質を低下させ、医療格差を作り出すものだと思いますがどうですか。

町長 医療難民とも言われる方を出さないためにも現制度の中で救われるものがあるか伺います。

意見の反映は

本木 新たな医療制度を運営する広域連合は、高齢者の意見を直接反映させる仕組みがないと思いますがどうですか。

町長 山形県後期高齢者医療広域連合は、平成19年2月に県内の全市町村が加入

し、新たな医療制度を運営するため設立されました。高齢者の意見は、広域連合議会議員がその民意をくみとって反映すべきものと思っています。

制度の撤回

本木 広域連合の議員は、全市町村から選出されてな

いことや、議会で決まったことを聞くだけになるなど様々な課題があり、白鷹町にとつて理屈の合わないものです。

町長 町長は、後期高齢者医療保険制度そのものを、撤回してもらおうとは考えていません。

資格証明書の発行 本木 新たな医療保険制度

五十嵐政司 議員



なぜ今、スポーツ振興基金の取り崩しか

町長 関係団体より理解を得た

取り崩しの経過は

五十嵐 2年前に議会に上程し、取り下げしたスポーツ振興基金の取り崩しを再度行おうとしています。その経過と考え方を伺います。

町長 平成17年に取り崩しが可能となる条例改正を提案しましたが、さらなる町民との議論が必要とのことから取り下げました。

この度は、関係団体との協議を何回となく行い理解を得たので、取り崩しが可能となる条例改正を提案したいと考えています。

取り崩せない基金は

五十嵐 本町には、取り崩しのできる基金とできない基金があるが、取り崩しのできない基金名と、なぜ取り崩しができないのか伺います。

総務政策課長 取り崩しのできない基金はスポーツ振興基金と勤労者福利厚生振



スポーツ少年団 結団式

興基金の2つの基金です。町長 スポーツ振興基金を取り崩すことができなかった大きな理由は、町民の方々の大きな理由で成り立っていることや、当時の金利が高く果実(利子)を基本として振興をはかるとした原点から処分が出来ないとしたと理解をしています。

基金の精神は

五十嵐 スポーツ振興は、本来行政の責任として行わなければならないものであり、基金の利子に左右されることなく、スポーツ振興基金事業として当時の当局

が年間400万円と固定したと認識しているが、この精神は、どのように考えていますか。

町長 スポーツ振興に対する熱意、必要性は、変わることなく、基金の利子にかかわらず一般財源から支出してきたと思っています。

五十嵐 基金の取り崩しについては、今までも委員会などで説明があったが、取り崩しを行うのは、一般会計から積み立てた分であるとして、寄付金と区分しているがどのように考えていますか。

教育長 基金の取り崩しは、

意識改革が必要

五十嵐 「協働のまちづくり」条例を制定した町として、まちづくりには職員の見識を変えるべきと思うがどうですか。

副町長 協働のまちづくりは、町民を巻き込んだ自治の総合力であり、政策の展開の中でプロセスを大切に職員の見識改革を含め、成熟化に取り組みます。

# 一般質問

菅原隆男 議員



## 一日も早くスクールバスの導入を

### 町長 平成21年度からの運行実施を検討

**菅原** 平成20年度にデマンド型交通一部運行  
高年齢者や公共交通空白地域にどのような交通サービスを検討していますか  
またデマンド型交通システム

**町長** 大変厳しい状況であります。平成13年度以降の利用者は年間1万人を割り、乗車密度も1人程度です。平成18年度の町の持ち出しが約440万円で大きな負担となっており、見直しを含め検討します。

**菅原** バス松風西高玉線は、利用者が少なく空車運行が見受けられますが、経営状況はどうなっているか伺います。  
**町長** 大変厳しい状況であります。平成13年度以降の利用者は年間1万人を割り、乗車密度も1人程度です。平成18年度の町の持ち出しが約440万円で大きな負担となっており、見直しを含め検討します。

#### 町営バスの運行状況

ムの導入を検討すべきと思  
いますがいかがですか。  
**町長** 町営バスに代わる交通手段として、ドア・ツー・ドアで送迎ができるデマンド型交通システムを検討しています。  
運行区や利用料金などは、住民や関係団体や交通事業者などを交えた地域公共交通会議を開催し、国の許可を得て、平成20年度中に一



利用者が少ない さくらバス

部区域の運行を実施します。将来的には町内全域を対象とした事業展開を目指していきます。  
**菅原** バス通学の遠距離児童生徒について、距離と生徒数は何人ですか。  
**教育振興主幹** 小学生は4km以上で38名です。中学生は6km以上で74名です。

#### スクールバスの導入

**菅原** 遠距離児童生徒の通学手段、中学校の部活動遠征など子供たちが安全、安心に通学できるよう効率的なスクールバスの導入が必要だと思いますがいかがですか。  
**教育長** 小中学校の統合再編のスケジュールを十分に考慮し、できるだけ早い導入を考えていきます。  
**町長** 児童生徒の安全、保護者の負担、路線バスが走っていない地域の子供たちを考えればスクールバス導入は、当然必要なことです。平成20年度に運行形態、対象エリアを検討し、平成21年度からスクールバスの運行を実施したいと思っています。

平均乗車密度  
運送収入÷実車走行キロ÷平均賃率(1キロ当たりの運賃)

# 一般会計

燃料費  
などに

## 472万円を追加補正

総額 72億 2,177万円となる

# 質疑

**議員** 原油高騰により町全体に及ぼす影響は大きいと思うが、どの様な取り組みを考えていますか。  
**当局** 生活、産業、経済に及ぼす影響は大きいと捉えています。年内中に対策本部を設置し、何らかの対応をはかります。

#### 原油高騰の影響は



施設園芸への影響は

**議員** 選挙管理委員会費の内容を伺います。  
**当局** 町議選の争訟にかかる経費です。再度、当選人の更正決定を行うため開催する選挙会の費用です。

#### 争訟の費用

- 一般会計補正予算の主なものは、
- 原油高騰にともなう生活支援対策事業に 313万円
- 障害者自立支援給付事業に 387万円
- 人事院勧告にともなう人件費などに 409万円
- 選挙管理委員会費に 13万円
- 児童措置費に 800万円
- などです。

#### 平成19年度補正予算総括表

| 会計項目   | 補正額     | 補正後の額       |
|--------|---------|-------------|
| 一般会計   | 472万円   | 72億 2,177万円 |
| 特別会計   |         |             |
| 下水道    | 347万円   | 7億 1,672万円  |
| 国民健康保険 | 7,952万円 | 15億 1,630万円 |
| 老人保健   | 700万円   | 18億 47万円    |
| 介護保険   | 1,293万円 | 13億 8,771万円 |

# 条例

新しくなること



がんばれ若粘ランナー

納期は第1期(7月)から第8期(2月)まで  
後期高齢者(75歳以上)医療制度が平成20年4月1日から施行されることにもない、年金から天引きできない方(普通徴収)の保険料の納付などを定めるものです。  
**特別室が3800円から5250円に**  
平成20年4月1日から、病院に入院の際に個室などの使用料差額が値上げになります。

#### 有効活用を図る

白鷹町スポーツ振興基金を、適切と認める事業の費用に充てる場合に限り取り崩しができるようになります。

#### 人事院勧告を準拠

町一般会計の給与の一部がかわります。扶養手当の額が6000円から6500円となります。行政職の給料表が改正され若年層は引上げ、中高年層は据え置きとなります。

# 委員会レポート

## 常任委員会

### 産建文教 エナテック株式会社の業務開始に期待

12月18日に本委員会を開催し、請願審査2件と所管事務調査及び現地調査を行いました。

牛海綿状脳症（BSE）全頭検査に対する全額補助継続の請願は、消費者の信頼を失わず農業の基幹産業である畜産を継続するために必要であると全会一致で採択となりました。教育予算の拡充を求める意見書提出の請願も教育は未来への先行投資であり、格差があつてはならないと全会一致で採択となりました。

産業振興課から、次の事項について報告を受けました。

米政策について、町内農家の大部分が、米価下落により打撃を受けています。行政として支援センターを立上げ対応を検討していきます。

町内の景況について、製造業は業種により企業間格差はあるが、自動車部品関連や電子部品関連などは堅調に推移しています。

建設業界は民間受注が低調で、公共事業も減少のため厳しい状態が続いていると説明がありました。

（財）白鷹町アルカディア財団の11月末までの経営状況は、前年比1235万円ほどの売上げ減となっています。さらに燃料代の上昇により経費が増えているとの報告がありました。



エナ・テック(株) 現地調査

委員からは、前年度決算での債務が1億1700万円になった理由の検証が必要であり、分かりやすい資料の提出が必要との意見が出ました。鮎貝に誘致したエナテック株式会社の現地調査では、製造する電気蓄熱床下暖房用設備などの内容や作業工程の説明を受け、業務開始を1月7日から行うとのこと、今後に期待しました。

### 総務厚生 再度法務局長井支局の存続の申し入れを

12月14日、委員会を開催し、所管事務調査を行いました。

安心安全のまちづくり条例（案）は、県内では白鷹町を除く全市町村で制定済みであるとの説明を受けました。条例案第4条、町民の責務での表現は、検討を要するべきとの意見が出されました。

高畠町に建設される置広余熱利用施設の概要と、町のバランスシート（資産状況）の説明がありました。

町振興実施計画は、第4次総合計画の集大成であるとの説明がありました。

国民健康保険税の税率改正では、後期高齢者医療制度による急激な被保険者の減少や、減らない医療費の実態についての説明がありました。

毎年の税率の引き上げでは、未納者が増えるのではないかとの意見が出されました。

山形地方法務局長井支局の統合と長井クリーンセンターのし尿処理施設については、9月議会以降の動向について説明がありました。

特に法務局長井支局の統合については、町民負担が増すので再度長井支局の存続を強く法務局に申し入れるべきとの意見が出されました。

美しい郷づくり基金条例（仮称）の説明がありましたが、課題があるためさらに精査したいとの事でありました。

町保育の将来ビジョン（中間報告）について現在まで検討を行ってきた内容についての説明がありました。



昨年度導入された防犯パトロール車

## 特別委員会

### 鮎貝まちづくり事業調査特別委員会

**事業の進捗よく状況は**（仮称）白鷹町文化交流センターは、本体の建設工事が19年8月から着工され、基礎部分が姿を現しました。現在、工事出来高84%で今年度45%の完成を予定しています。

工期は、平成20年12月10日となっております。（工事費6億3000万円、工事請負者、那須・丸ト特定建設共同企業体）

平成21年秋オープンに向けて、今後、多目的ホールやギャラリーなどの運営、管理などソフト面の充実が重要となってきます。

なお、土地区画整理事業の分譲の状況は、107区画38区画の36%、その内一般分譲は、69区画9区画が分譲済みとなっています。



文化交流センター 現地視察

**戸建て住宅を建設**

12月12日特別委員会を開催し、事業の進捗よく状況や今後の予定などの説明を受けました。

若者定住、子育て支援を目的とする賃貸住宅の建設は、当初の集合住宅の計画を変更し、騒音や生活パターンなどの子育てに配慮した戸建て住宅とし、文化交流センターの隣接地に15戸（一期計画では12戸）を建設する計画です。子育てへの安全性から、給湯・暖房はオール電化を採用することです。

当初計画した24戸を建設するには、新たに、残り9戸分の用地の確保が必要となってきます。

委員からは、建設費が高すぎないか、核家族化の助長につながるかななどの意見がありました。

# 意見書

議員発議により、3件の意見書を関係大臣等に提出することになりました。

地方財政の充実・強化を求める意見書  
安定的な行財政運営に必要な一般財源の総額を確保することを求める。

牛海綿状脳症（BSE）全頭検査に対する全額補助継続を求める意見書  
平成20年7月末でBSE検査補助を打ち切ると決定したのに対し、引き続き補助を求める。

教育予算の拡充を求める意見書  
教育水準に格差があってはならず、教育予算を国全体としてしっかり確保・充実させることを求める。

# 人事

人権擁護委員候補者

丸川敬浩氏(十王)

# 表彰

総務大臣感謝状(議員在職35年以上)

本木勝利議員



# 請願審査

## 採択された請願

白鷹パークゴルフ場コース増設の請願  
請願者 白鷹町パークゴルフ協会 会長 佐藤孝平  
置賜地区厚生年金受給者協会 白鷹支部長 佐藤琢治

地方財政の充実・強化を求める請願  
請願者 連合山形置賜地域協議会 議長 金子 浩

牛海綿状脳症（BSE）全頭検査に対する全額補助継続について  
請願者 山形おきたま農業協同組合 経営管理委員会会長 神尾伸一  
山形おきたま農協農政対策本部 本部長 神尾伸一

教育予算の拡充を求める提出方請願  
請願者 山形県教職員組合置賜地区支部 支部長 林 公子

## 継続審査になった請願

日豪、日米などFTA・EPA促進路線の転換と、自給率向上に向けた施策の強化を求める請願  
請願者 白鷹農民連 今 敏夫

# 決議

県内トップを切って「最上川の文化的景観」の世界遺産登録を求め  
最上川流域の市町村が力を合わせ、最上川文化の更なる発展と交流を図る千載一遇の機会である。  
本議会は、世界遺産登録に大きな期待を持ち、県との連携を一層深め、世界遺産登録実現のために努力することを誓いここに決議する。



佐藤五郎氏(米沢中央高校 副校長)より最上川舟道を学ぶ



彦根市「キャッスルロード」の視察

まちづくりは人材であることを学ぶ  
中部研修班(7名)は、10月15日から17日の日程で、「観光交流によるまちづくり及び廃校の有効活用に関すること」を研修するため滋賀県彦根市及び愛知県豊田市足助地区を訪問し、視察研修を行いました。  
滋賀県彦根市は、彦根城築城400周年にあたり、彦根城周辺は、平日にもかわららず観光客で賑わっております。  
彦根市は、交通の要衝として賑わっていた時期もあったが、時代の流れとともに空洞化が進み衰退に向かっています。市は、商店街の活性化に向け「まちづくりの主役は住民である」との認識の下、土地区画整理事業を基盤とした整備と、組合員が主となった法人を設立して再開発事業を展開しました。彦根市では、住民と行政が対等な関係での協働のまちづくりを学びました。  
愛知県豊田市足助地区では、住民総出で「もみじ」の植栽を行った事からまちづくりが始まりました。  
過疎により活力を失いつつあるとき「保全を開発と信じるまちづくり」であることを基本理念に、今ある歴史や文化や自然を見据えて新しい町の魅力を創り出すものであります。  
この度の研修では、まちづくりは、人材だと改めて問い直されるものでした。

# 交流人口拡大に向けた取り組みに学ぶ

10月23日から25日までの3日間、北九州市豊後高田市、由布市湯布院町へ7名の議員が参加し研修を行いました。  
北九州市では多くの観光客を呼び込んでいる歴史的建造物や洋風館を地域資源として活用した門司港レトロ、廃校を活用した図書館や門司港アート村を視察しました。  
豊後高田市は昭和30年代の建物が残っていた商店街を官民一体となり昭和の町に再生、商業と観光の一体化をはかったまちづくりを視察しました。  
第一回農村アムニティコンクール全国一位の湯布院は、旅館組合、観光協会、農業団体などが一つになり、まちづくりを行っている現状を視察しました。  
この度の研修では、行政主導であったまちづくりは、民に移行して、「行政は見守る」ことが自立的なまちづくりのレベルを向上させていく要因になっていることを学びました。



豊後高田市「昭和の町」ボランティアガイドによる視察

# 追跡レポート

— あの質問のゆくえ —

定例議会で質問された課題が、その後どのように町政に反映されたかを検証します。

## 病室の個室利用について

個室の差額を徴収しない基準の中に、「終末期の患者で意識がなく、医師が判断した時」という項目を加えてはどうか。

平成 15年 9月定例議会

町長答弁

## 病院で十分に検討していく

終末期の患者さんに関して、症状などを考慮しながら、家族とも十分な話し合いを持って対応をしているところです。

基準に項目を加えることに関しては、病院内で十分に検討します。

どうなった

## 免除項目を追加

平成 15年 12月、町立病院の内規である『差額ベット使用基準』に「終末期の患者で主治医が必要と認めた時(ただし、死亡日を含めて3日間の免除とする。)」という項目を追加しました。



増える個室利用の希望者

## 議会の様子を見てください

傍聴手続きは簡単、議会事務局(85-6135)へお問い合わせください。

次の定例議会は **3月** です

● 議会中継もご覧ください

お手持ちのパソコンでご覧いただけます  
録画でもご覧いただけるようになりました

HP <http://www.townshiratakyamagata.jp/gkai/>

議会中継

## 編集後記

新年明けましておめでとうございます。  
「格差社会、原油の高騰、ねじれ国会、米価の下落」など先行き不安感をぬぐいきれないまま、雪国らしくらぬ穏やかな中で、年明けとなりました。  
昨年をふり返れば、凶悪な事件の多発や、大手や老舗で相次いだ様々な食品偽装、政治資金や年金問題など政官のモラルの低下が著しく、社会への信頼を揺るがす出来事も多い年でした。そんな中で、日本社会の姿が凝縮された世相を表す昨年の漢字に「偽」が選ばれました。新年にあたり気持ちを切り替え、「偽」を払いはと、期待したいものです。そんな思いを込めながら、新たに編集スタッフに参加させていただくこととなりました。  
議会報の使命、分かりやすさと真実・公正・公平な姿勢に徹してまいります。  
(青木)

発行責任者・議長  
**船山 仁**  
広報委員  
委員長 **青木 彰榮**  
副委員長・編集長 **関 千鶴子**  
委員 **佐藤 誠七**  
**守谷 丹吾**  
委員 **菅原 隆男**  
印刷・(有)梅津印刷